

# 積極的な地域交流を 通じて自分の可能性を 広げてほしい

学校法人昌賢学園 群馬社会福祉大学 理事長・学長 鈴木利定  
取材文／堀水潤 撮影／清田征剛



【理事長・学長プロフィール】1946年生まれ。二松学舎大学大学院博士課程中国哲学専攻修了。71年学校法人昌賢学園理事長、02年群馬社会福祉大学学長。日本介護福祉士養成施設協会役員、日本私立短期大学協会常任理事ほか役職多数。  
【大学プロフィール】1499年開設の漢学学問所を源流とし、2002年に開学。社会福祉学部社会福祉学科に加え、10年看護学部を新設予定。大学院、短大ほか、法人として群馬社会福祉専門学校、群馬社会福祉大学附属医療福祉専門学校などを有す。

本学は「仁」、つまり人を慈しみ思いやる気持ちを教育方針として掲げています。いくら学業優秀でも人の気持ちに添えずに福祉の仕事はできません。

そうした心を養うためには積極的に人とかかわることが大切です。きめ細やかな少人数教育に加え、ボランティア活動を必修としているのもそのためです。毎週土曜日はボランティアの日と定め、各自希望する施設へ赴き継続的な活動を行っています。活動内容は報告書にまとめられ、議論や発表の場も設けるなど学習の一環としています。

教育機関、施設、病院などボランティア先が多岐にわたるように、福祉の仕事は幅広い領域をカバーしています。一般に福祉というと老人介護など施設で働くイメージがありますが、実際は、人が生まれてから晩節に至るまでの生活全般を支える仕事です。そうとらえることで進路選択の幅は広がるでしょう。

社会福祉士の資格をとりながら警察官を志望したある学生に理由を尋ねたところ、「ここで学んだことを生かし、交番勤務で地域福祉を充実させたい」という答えが返ってきました。しっかりと考えた考え方に私は感嘆しました。同様に、不登校や障害で苦しむ児童に向き

合いたいと小学校の先生になった学生も大勢います。銀行や百貨店に勤めるのも然り。福祉の仕事は奥深く、社会もその専門性を求めているのです。

その福祉と近い領域にあるのが医療であり、本学は2010年度、看護学部を新設する予定です。キャンパスを置く藤岡市と積極的に連携し、街づくりにもかかわるつもりです。学生のアイデアを借り、商工会議所などと知恵を絞りながら、例えば医療相談所や介護施設、学習塾をつくってもいい。学園祭を市内で行うことで街の活性化につながるかもしれません。そうした広い意味での福祉、地域交流を通じて、国家試験に合格するだけの勉強ではなく、自分の可能性を広げてほしいと思います。

私が学生に求めるのは、思いやりの心に加え、目的をもつことです。私の場合、教育に情熱を注ぐ父の姿を見て育つたことから、自分も理想の学校をつくらうと志し、専門学校、短大、大学設立と、目的を貫くことができました。もちろん、目的をもつためには現実を知る必要があります。現実を直視しない理想は空想で終わりがかねません。その点でも、ボランティアは現実を学ぶ格好の機会といえるでしょう。